

平成30年度
青少年の健全育成に関する
意識調査結果

概要版

【調査概要】

- 目的： 青少年健全育成に関する県民の意識や行動について調査を行い、現状の県民意識や行政に対するニーズを把握すると共に、今後の青少年の健全育成の基礎資料を得ることを目的とする。
- 対象者： 岩手県内に居住する少年(中学生・義務教育学校後期課程の生徒・高校生)500人とその保護者500人及び、満20歳から39歳の青年男女1500人
- 調査時期： 平成30年10～11月
- 回収状況： 少年484人(回収率96.8%)、保護者479人(95.8%)、青年366人(24.4%)

※各グラフの「N=」は、質問に対する有効回答数です。

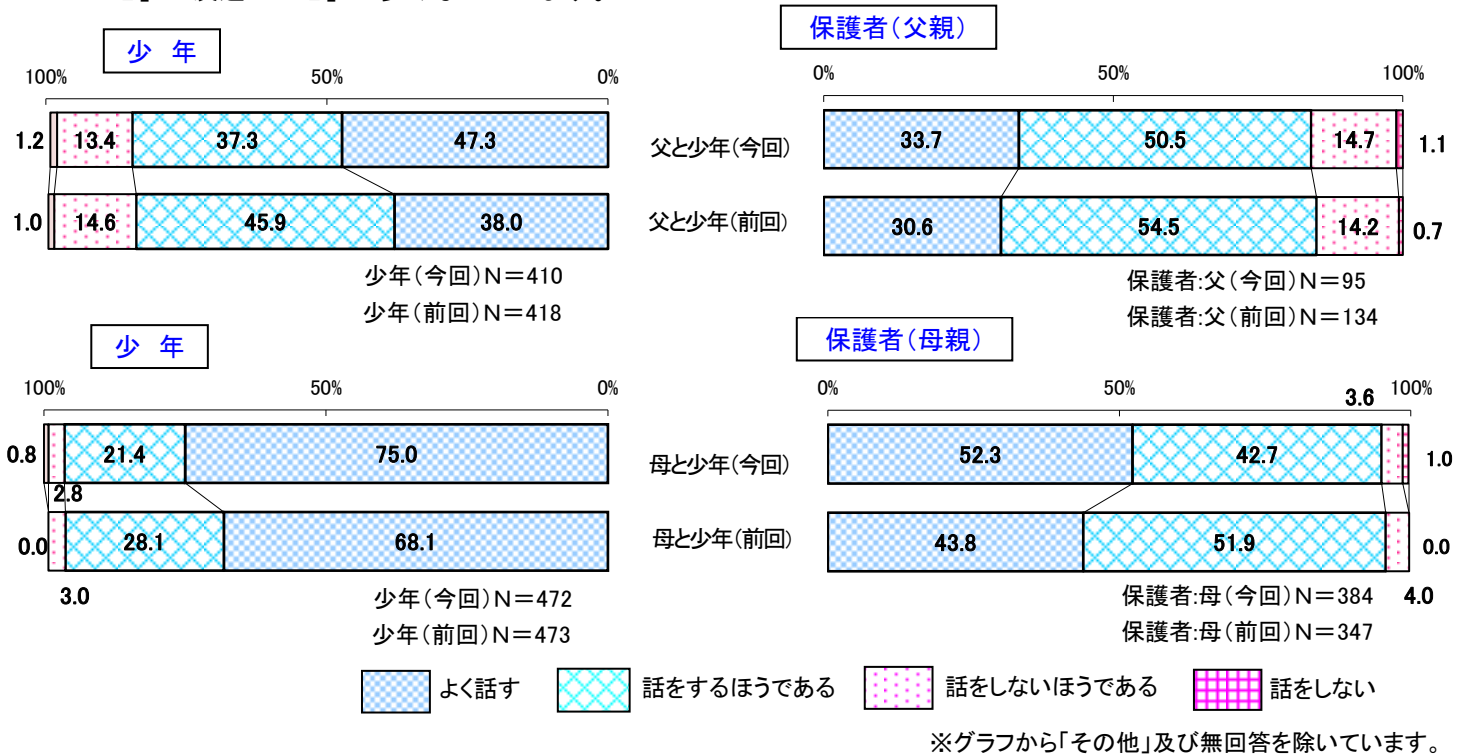
I 親子の関係

1 親子の会話

◎ 少年は父親、母親ともよく話をしています。

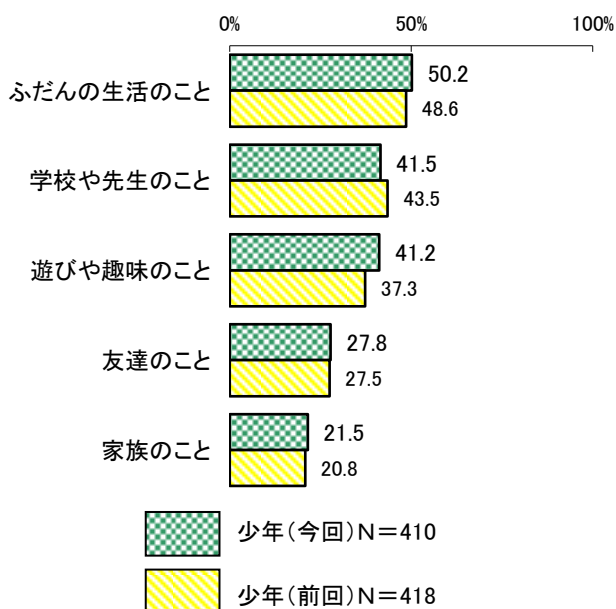
親子の会話は、父親と「話をする」と回答した少年は84.6%、母親と「話をする」と回答した少年は96.4%です。前回調査と比較すると、父と「よく話す」と回答した少年が9.3ポイント増加しています。

また、少年が父親と会話する内容では「ふだんの生活のこと」「遊びや趣味のこと」が多く、母親とは「学校や先生のこと」「友達のこと」が多くなっています。

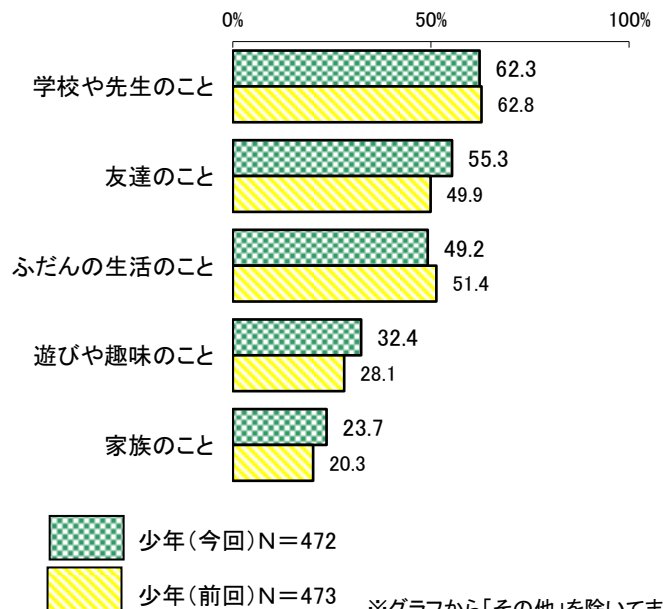


※グラフから「その他」及び無回答を除いています。

父親との会話の内容(少年)上位5項目



母親との会話の内容(少年)上位5項目



2 親子の相互理解

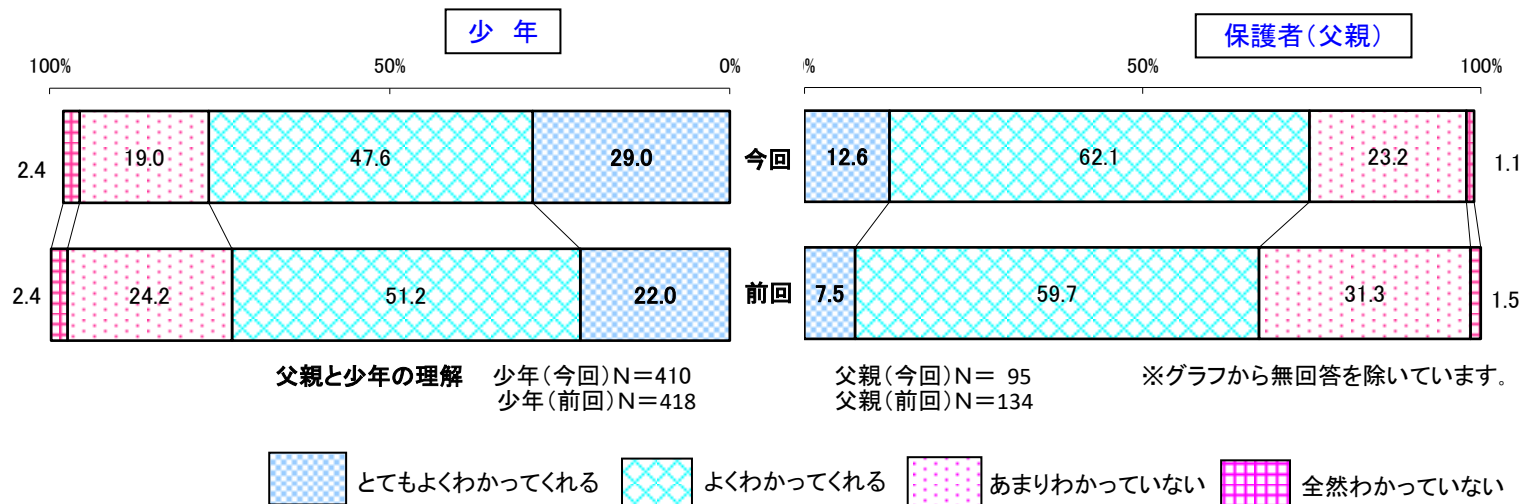
◎ 親子の相互理解が深まっています。

父親が「とてもよくわかってくれる」「よくわかってくれる」と回答した少年は76.6%、母親が「とてもよくわかってくれる」「よくわかってくれる」と回答した少年は86.6%です。

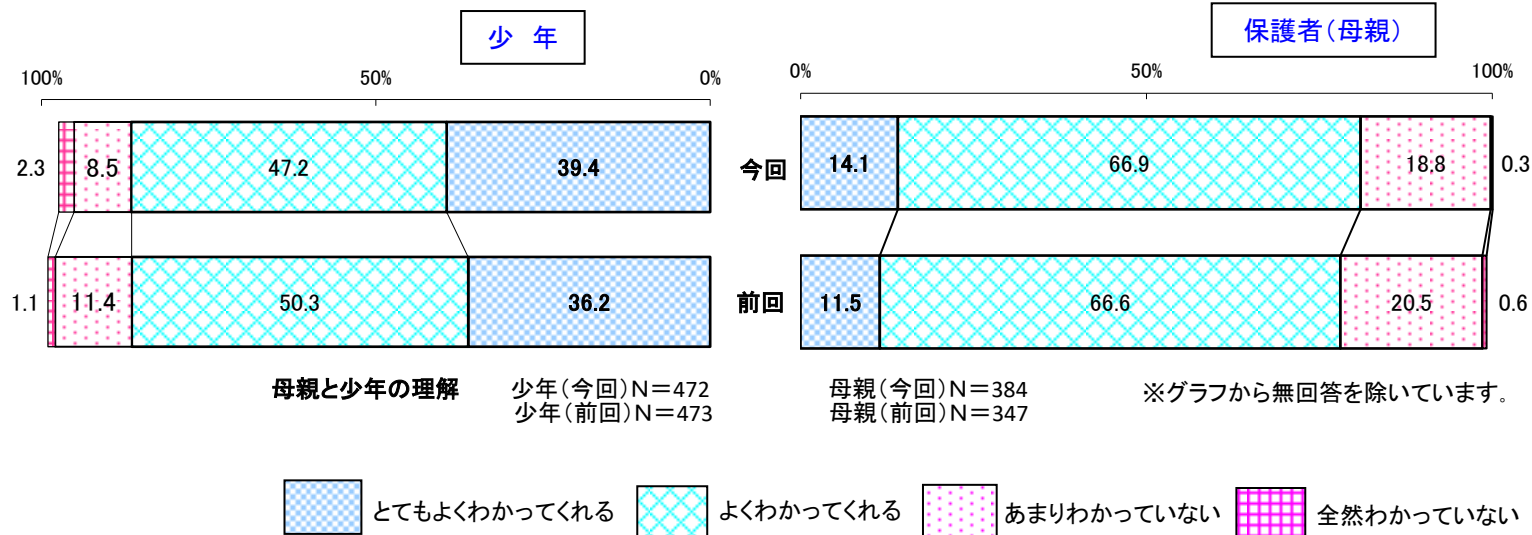
一方、少年が「とてもよくわかってくれる」「よくわかってくれる」と回答した父親は74.7%、母親は81.0%です。

前回調査と比較すると、父親が「とてもよくわかってくれる」と回答した少年が7.0ポイント増加し、少年が「とてもよくわかってくれる」と回答した父親が5.1ポイント増加しています。

【父親と少年の理解】



【母親と少年の理解】



Ⅱ 青少年の悩み

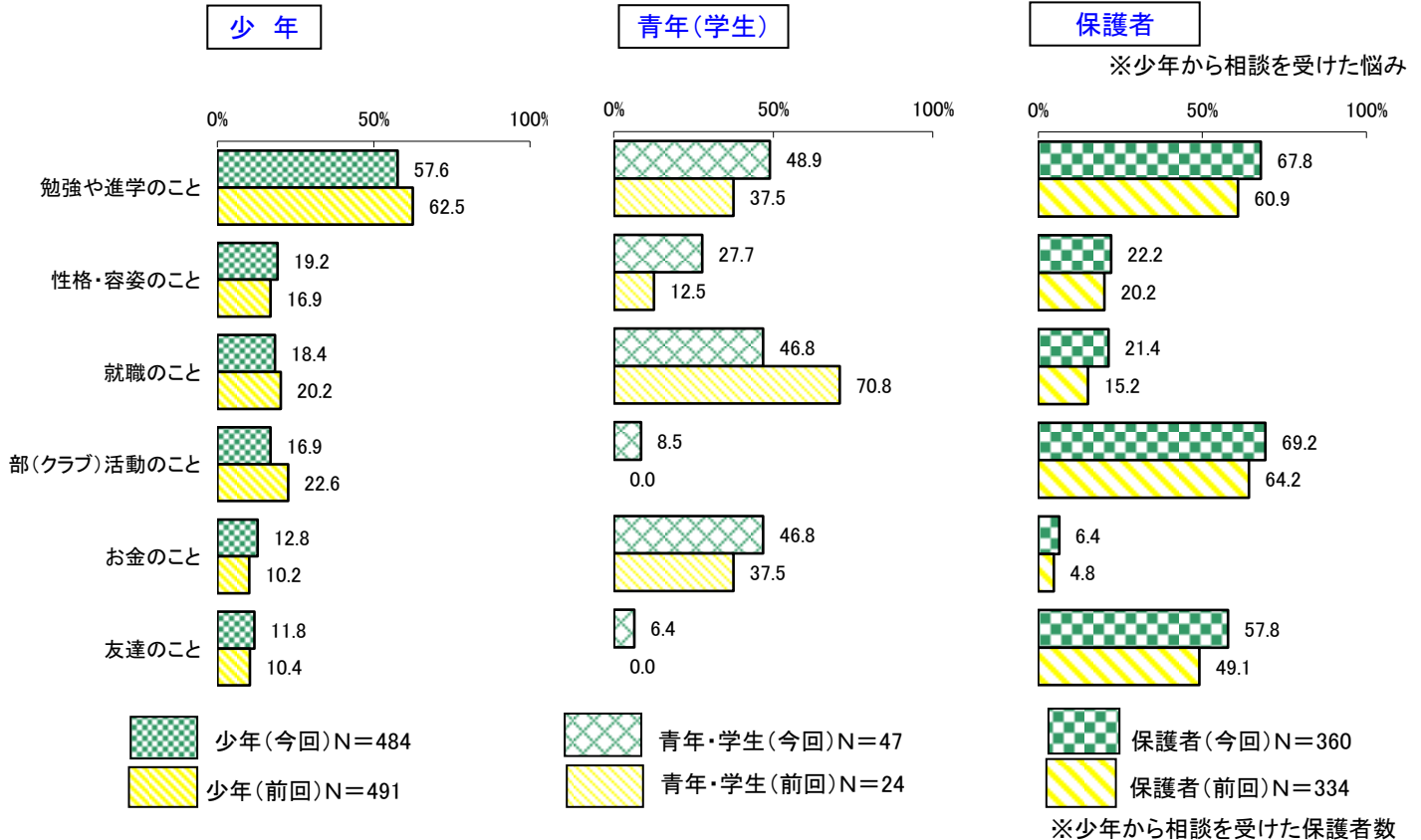
1 青少年の悩み(複数回答)

◎ 少年、青年(学生)の悩みは「勉強や進学」です。

少年の悩みの上位6項目のうち、最も多かったのは「勉強や進学のこと」です。前回調査と比較すると、「性格・容姿のこと」が4番目から2番目の割合になっています。

青年(学生)「勉強や進学のこと」が最も多く、「就職のこと」が続きます。前回調査と比較すると、「就職のこと」が24.0ポイント減少しています。

保護者が少年から多く受けた悩み相談は、「部活動のこと」「勉強や進学のこと」「友達のこと」の順となっています。前回調査と比較すると、6項目全てで相談を受けた割合が増加しています。

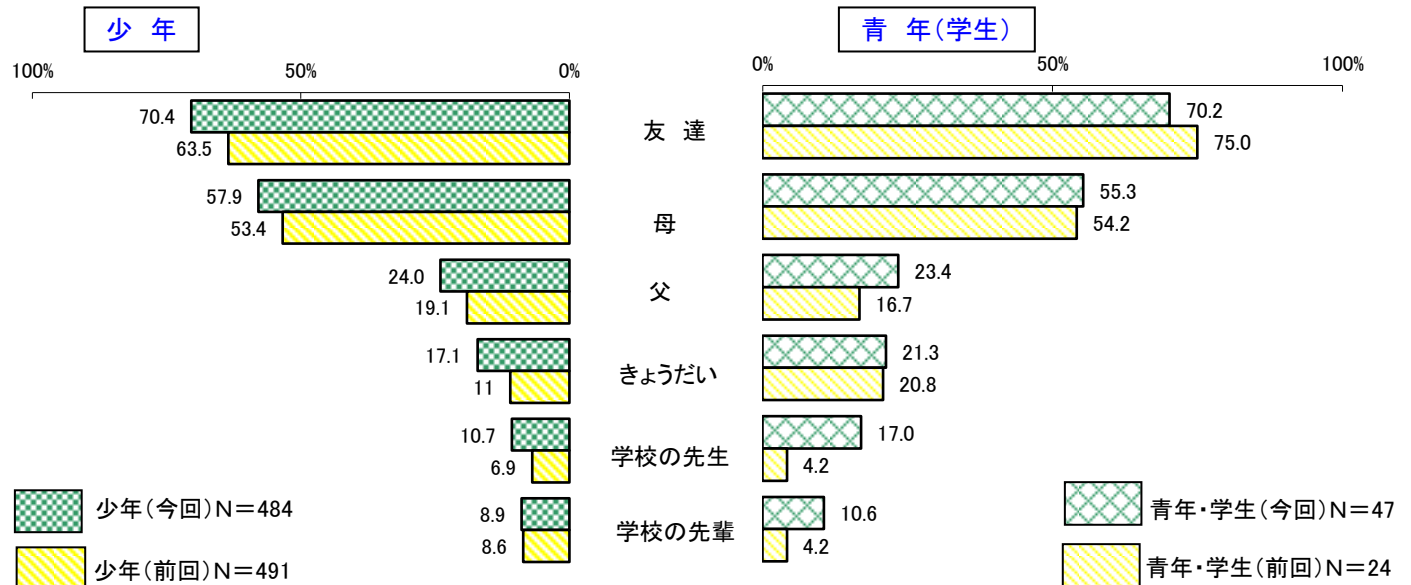


2 悩みごとの相談相手(複数回答)

◎ 少年も青年(学生)も、「友達」と「母」が相談相手です。

悩みの相談相手上位6項目のうち、少年、青年ともに「友達」が最も多く、少年、青年の7割以上が「友達」に相談すると回答しています。次に多かった相談相手は「母」で、青少年の5割以上が母に相談しています。

前回調査と比較すると、「友達」と回答する割合が、少年が6.9ポイント増加し、青年は4.8ポイント減少しています。



Ⅲ 青少年の夢や希望

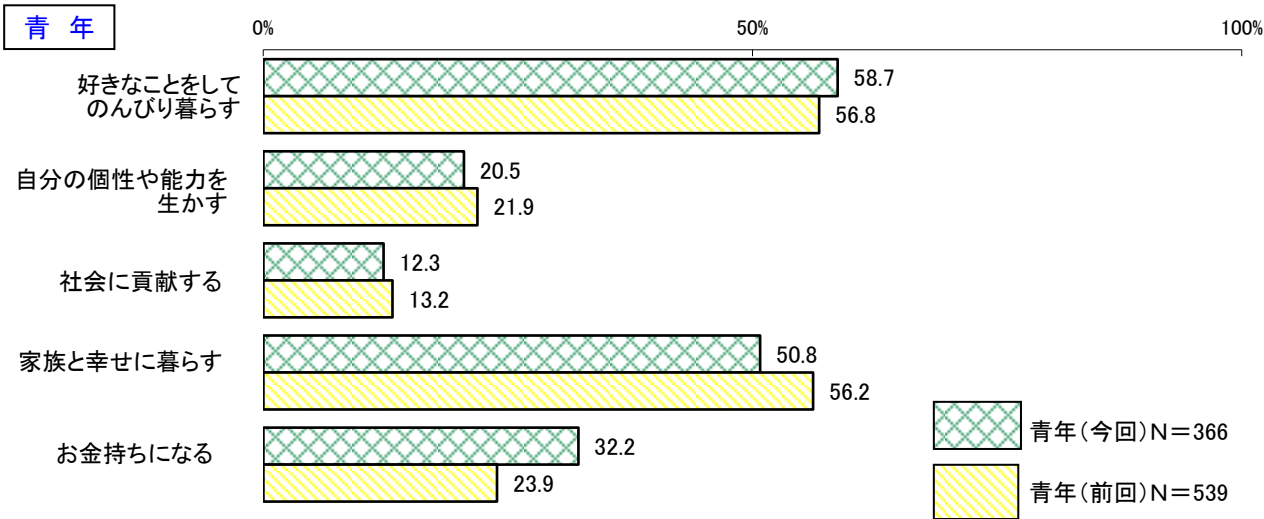
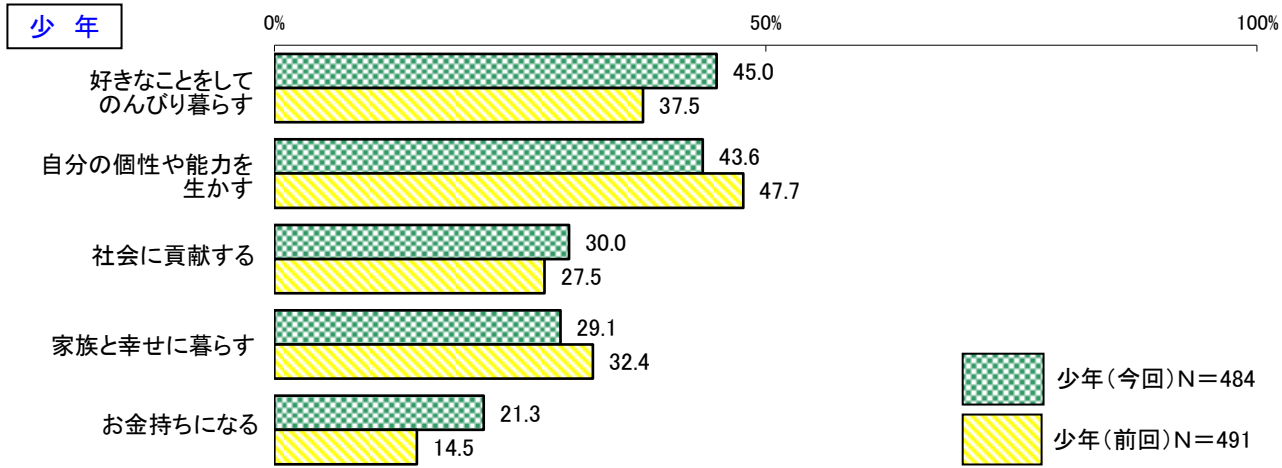
1 将来の夢(複数回答)

◎ 少年は「好きなことをしてのんびり暮らす」「自分の個性や能力を生かす」ことが将来の夢です。

少年は「好きなことをしてのんびり暮らす」「自分の個性や能力を生かす」と回答した割合が高くなっています。前回調査と比較すると、「好きなことをしてのんびり暮らす」と回答した割合が7.5ポイント増加しています。

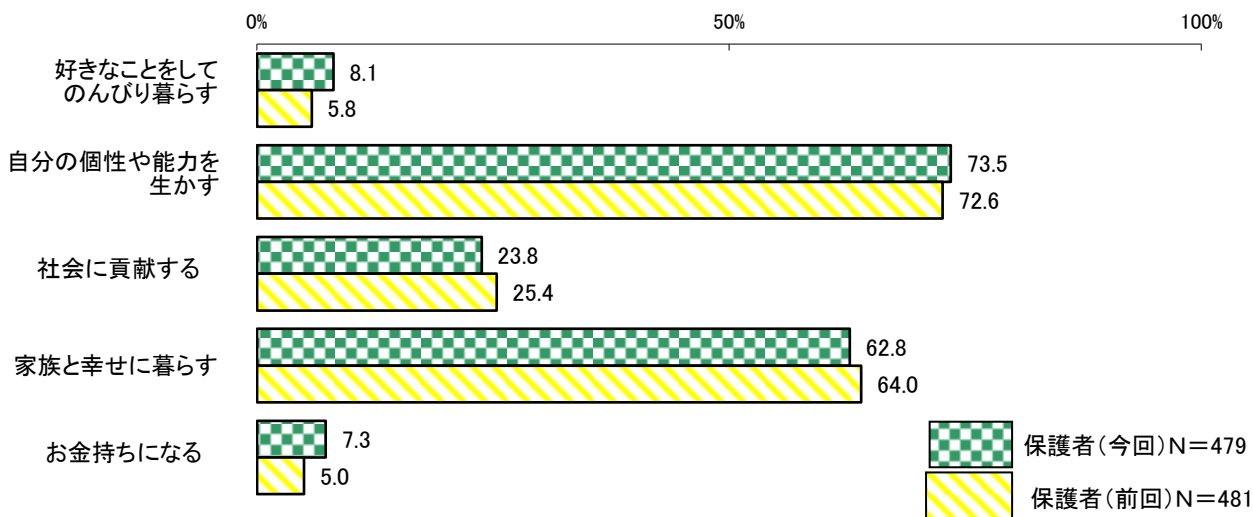
青年は「好きなことをしてのんびり暮らす」「家族と幸せに暮らす」が5割を超えています。前回調査と比較すると、「お金持ちになる」と回答した割合が8.3ポイント増加しています。

保護者は「自分(少年)の個性や能力を生かす」が最も多く7割を超えています。



保護者

※少年に対する夢

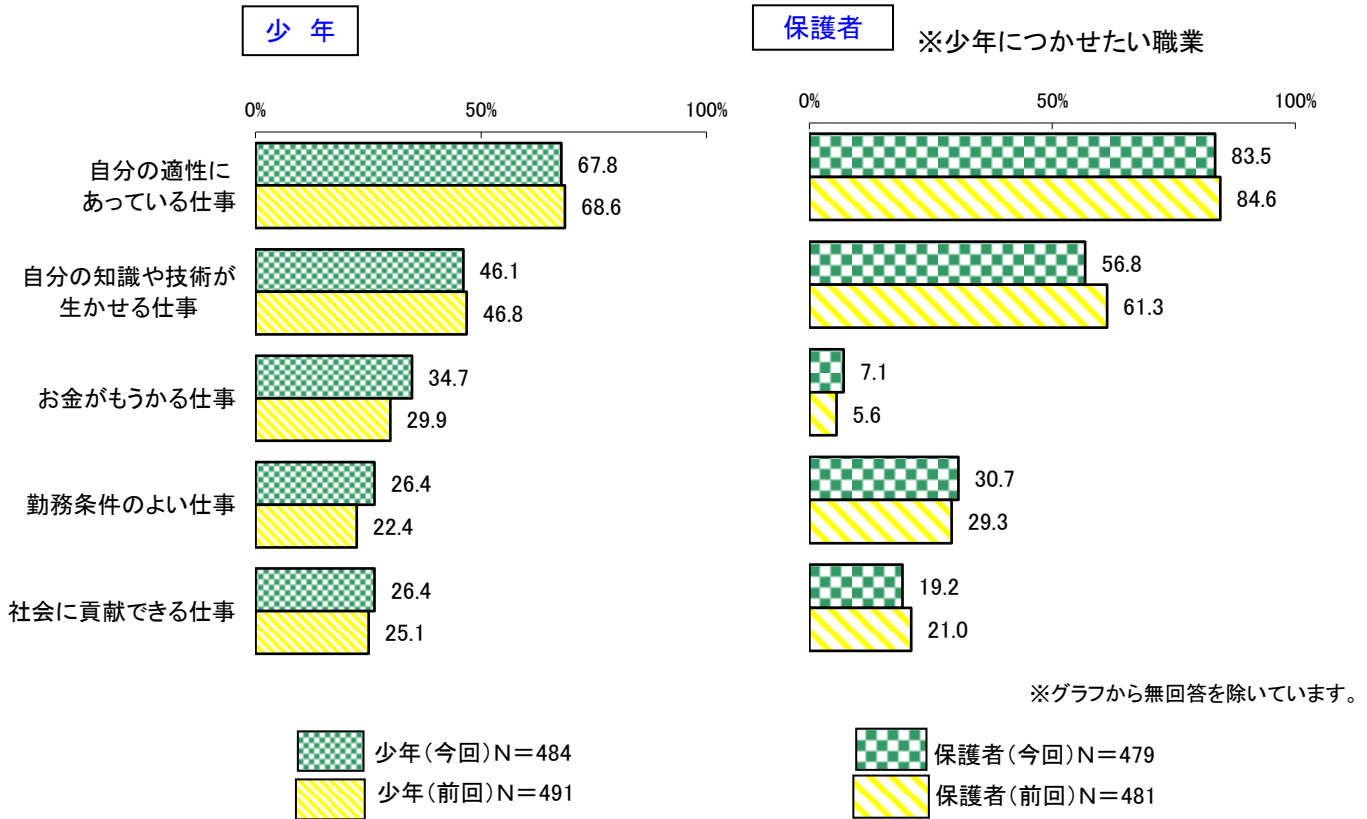


2 将来の職業

◎ 「自分の適性にあっている仕事」「自分の知識や技術が生かせる仕事」につきたいと考えています。

少年、保護者ともに「自分（少年）の適性にあっている仕事」「自分（少年）の知識や技術が生かせる仕事」と回答した割合が高くなっています。

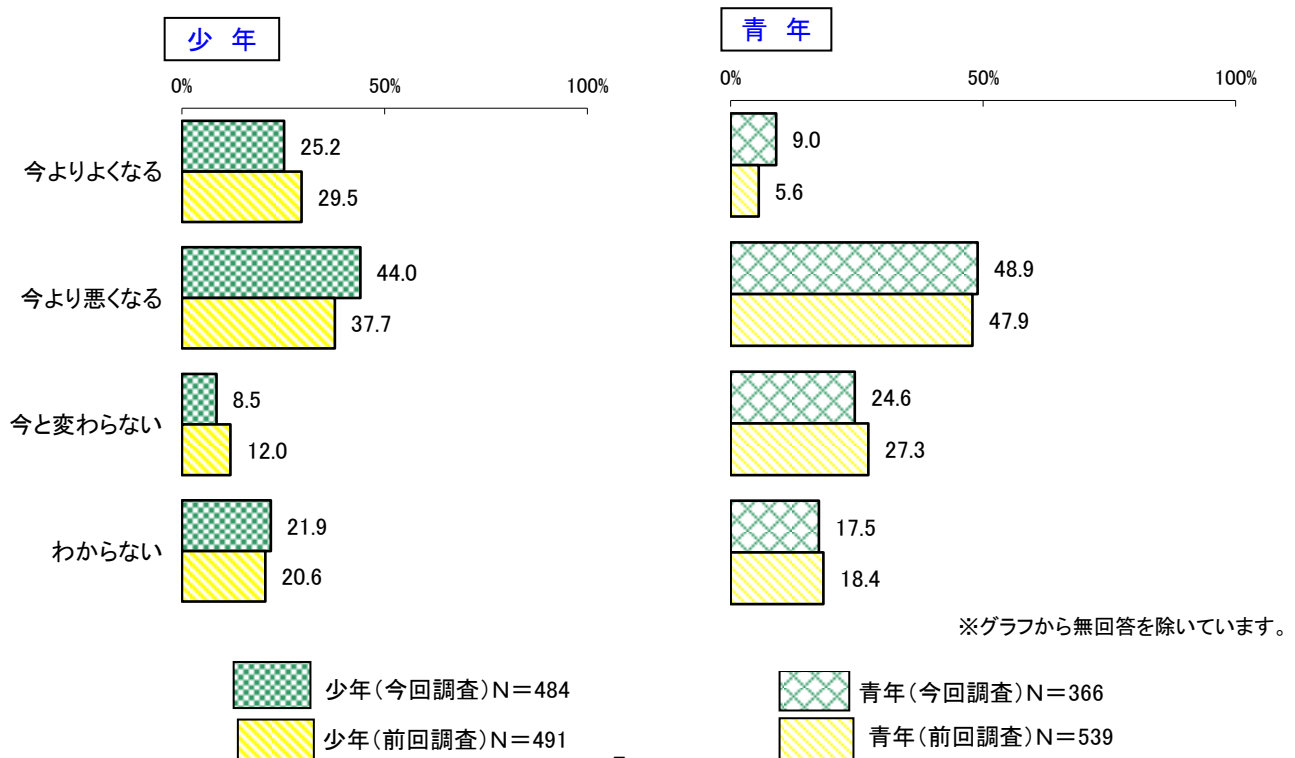
「お金のもうかる仕事」と回答した少年は3割を超えていますが、保護者は1割未満となっています。



3 10年後の社会

◎ 多くの青少年が10年後の社会に悲観的です。

少年、青年ともに10年後の社会は「今より悪くなる」と回答した割合が4割を超えています。

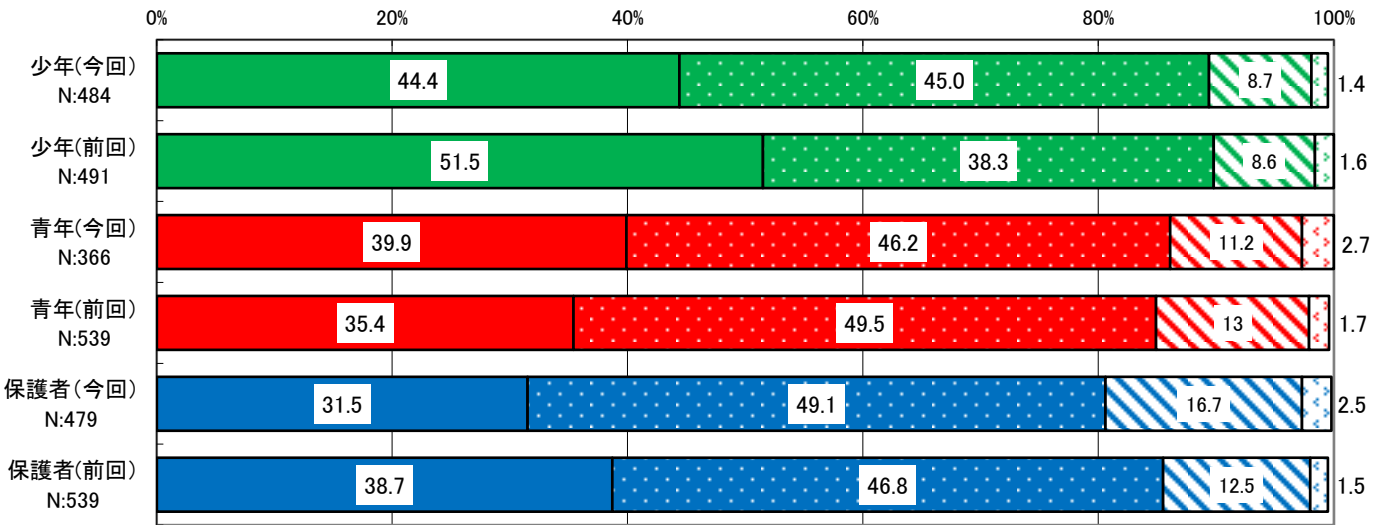


IV 地域への愛着

1 住んでいる地域への愛着

◎ 8割以上が「地域が好き」と回答しています。

少年、青年、保護者ともに住んでいる地域が「好き」または「どちらかといえば好き」と回答している割合が8割を超えています。



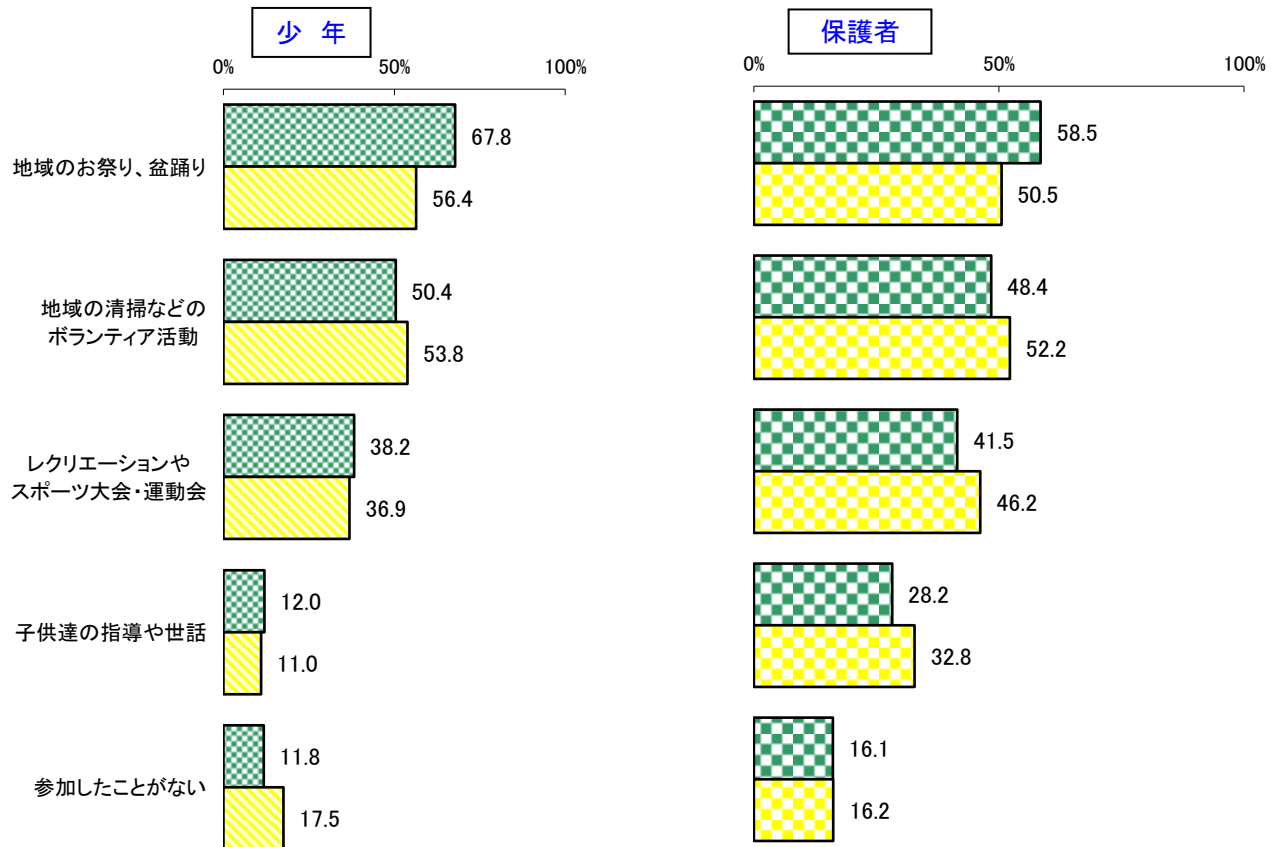
※グラフから無回答を除いています。



2 住んでいる地域・地域活動への参加

◎ 6割以上の少年が地域のお祭りに参加しています。

地域活動への参加は、少年、保護者ともに「地域のお祭り、盆踊り」への参加が最も多く、前回調査と比較すると少年は11.4ポイント、保護者は8.0ポイント増加しています。



※グラフから「その他」と無回答を除いています。

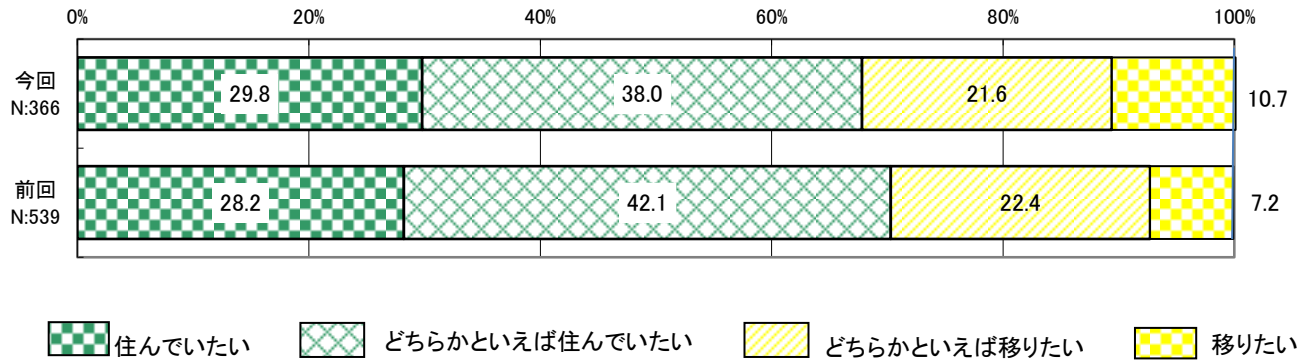


3 将来の居住地

◎ 6割以上の青年が今の地域に「住んでいたい」「どちらかといえば住んでいたい」と回答しています。

将来もずっと今の地域に「住んでいたい」または「どちらかといえば住んでいたい」と回答した青年が6割を超えています。

青年

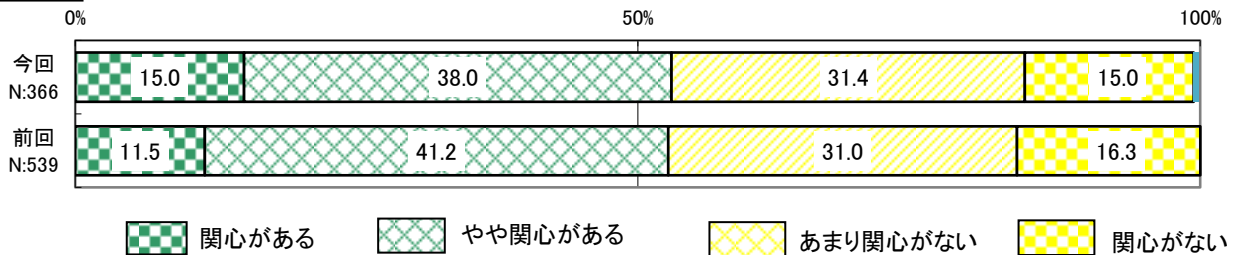


4 青年の活動

◎ 5割以上青年が、若者が企画するプロジェクトへの参加に関心を示しています。

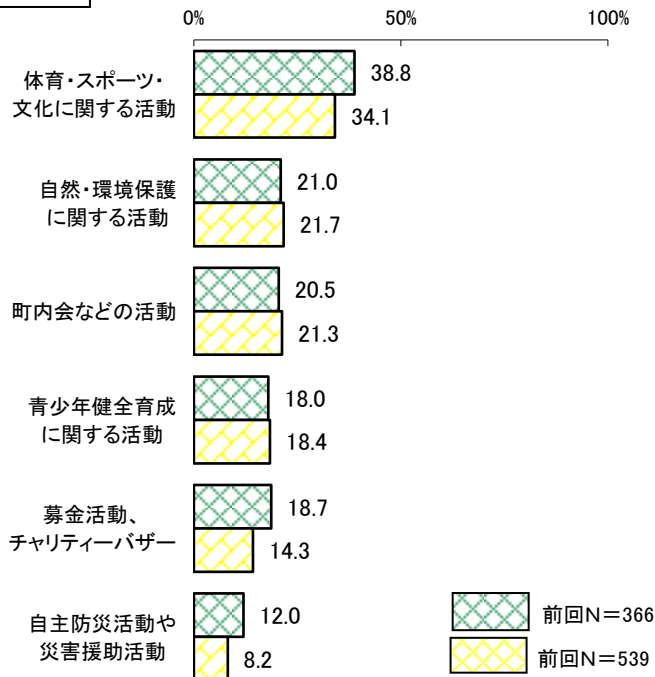
若者が企画するプロジェクトに参加することへの関心

青年



参加したことがある活動

青年



青年が企画するプロジェクトに参加することへ「関心がある」「やや関心がある」と回答した割合が5割を超えています。

また、前回調査と比較すると、「関心がある」と回答した割合が4.5ポイント増加しています。

青年が参加したことがある活動では「体育・スポーツ・文化に関する活動」「自然・環境保護に関する活動」「町内会などの活動」の順になっています。

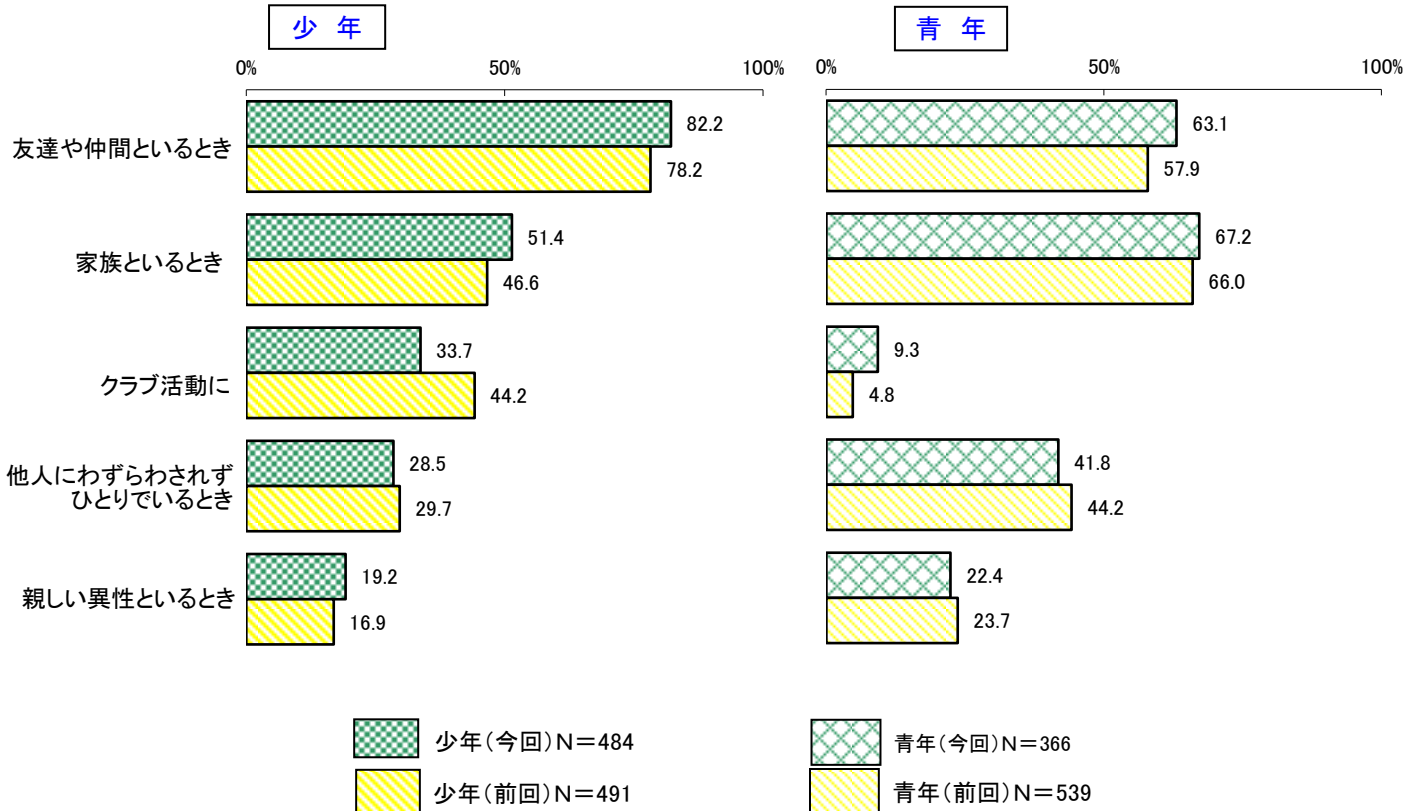
前回調査と比較すると、「募金活動、チャリティバザー」が4.4ポイント、「自主防災活動や災害援助活動」が3.8ポイント増加しています。

V 青少年の日常生活

1 幸せを感じる時(複数回答)

◎ 青少年は「友達といるとき」幸せを感じています。

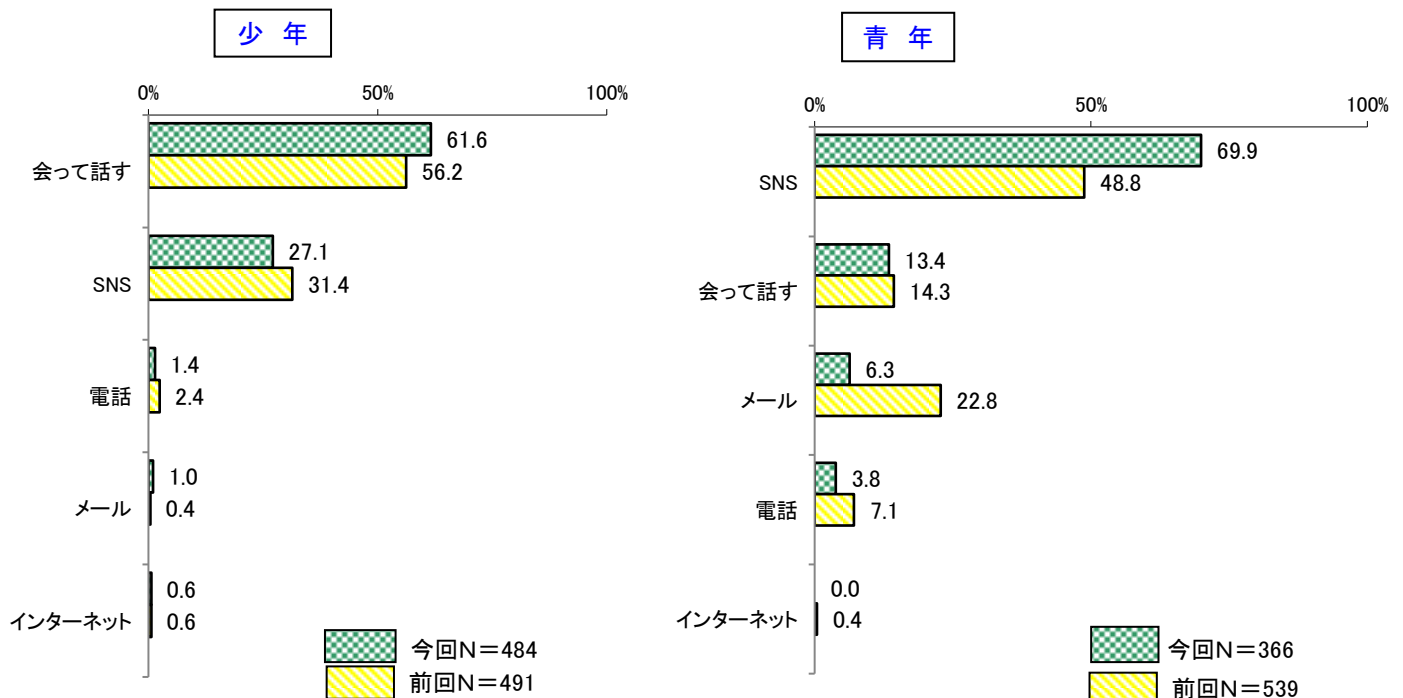
幸せを感じる時は、少年が「友達や仲間といるとき」、青年は「家族といる時」が最も多くなっています。前回調査と比較すると、少年、青年ともに「ひとりであるとき」と回答している割合が減少しています。



2 友達とコミュニケーションをとる方法

◎ 少年は「会って話す」、青年は「SNS」でコミュニケーションをとっています。

友達とのコミュニケーションの方法は、少年は「会って話す」、青年は「SNS」が最も多くなっています。また、青年は「SNS」が前回調査より21.1ポイント増加し、「メール」が16.5ポイント減少しています。



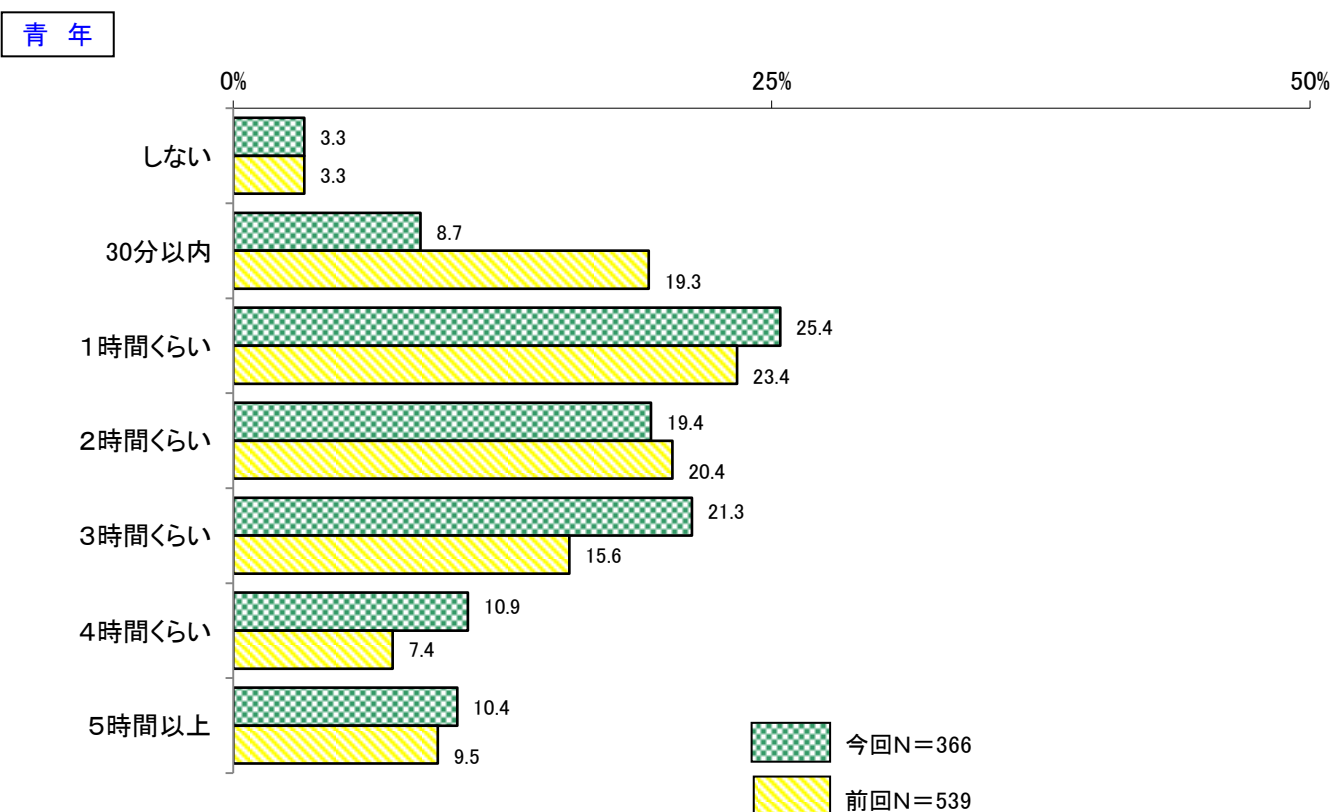
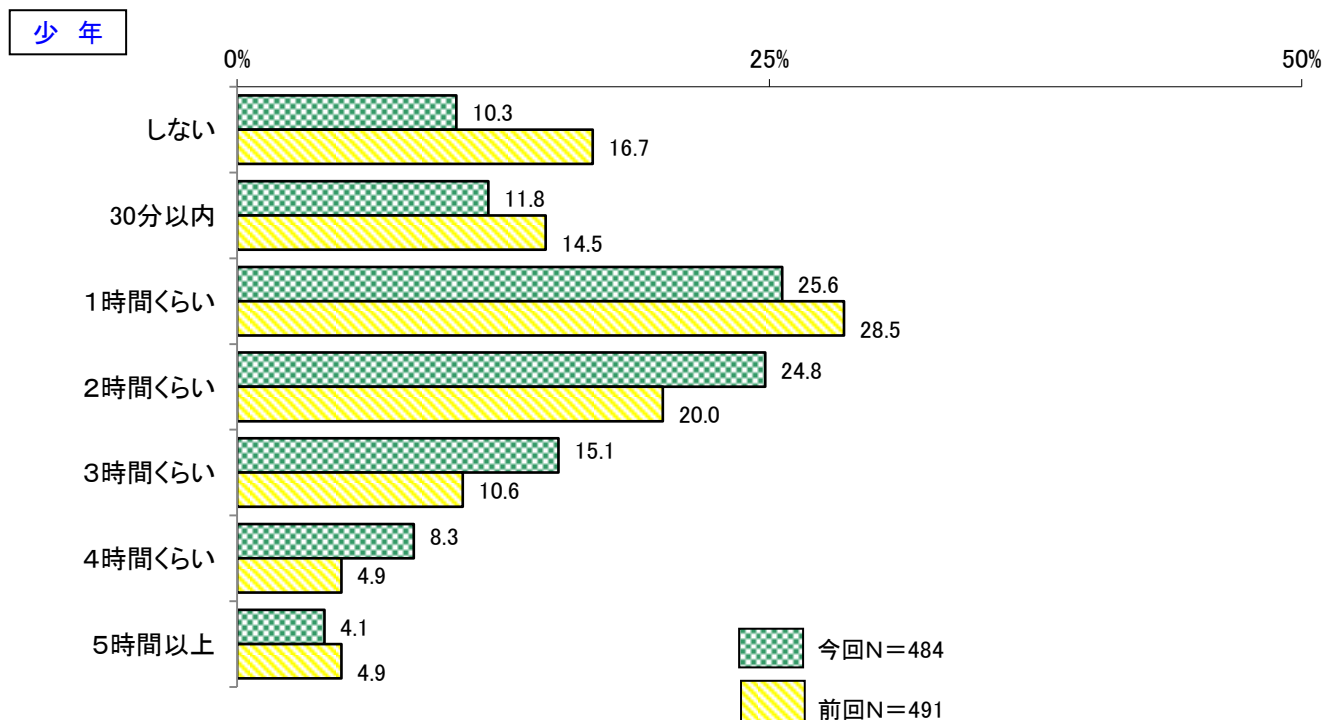
3 インターネットの利用状況

◎ 青少年は1日「1時間くらい」の利用が最も多くなっています。

1日にインターネットやメール（携帯電話、スマートフォンを含む）をする時間は、少年、青年ともに「1時間くらい」が最も多くなっています。

また、青年では「5時間以上」と回答した割合が1割程度います。

前回調査と比較すると、少年は「2時間くらい」が4.8ポイント、「3時間くらい」が4.5ポイント増加しています。青年は、「30分以内」が10.6ポイント減少し、「3時間くらい」が5.7ポイント増加しています。



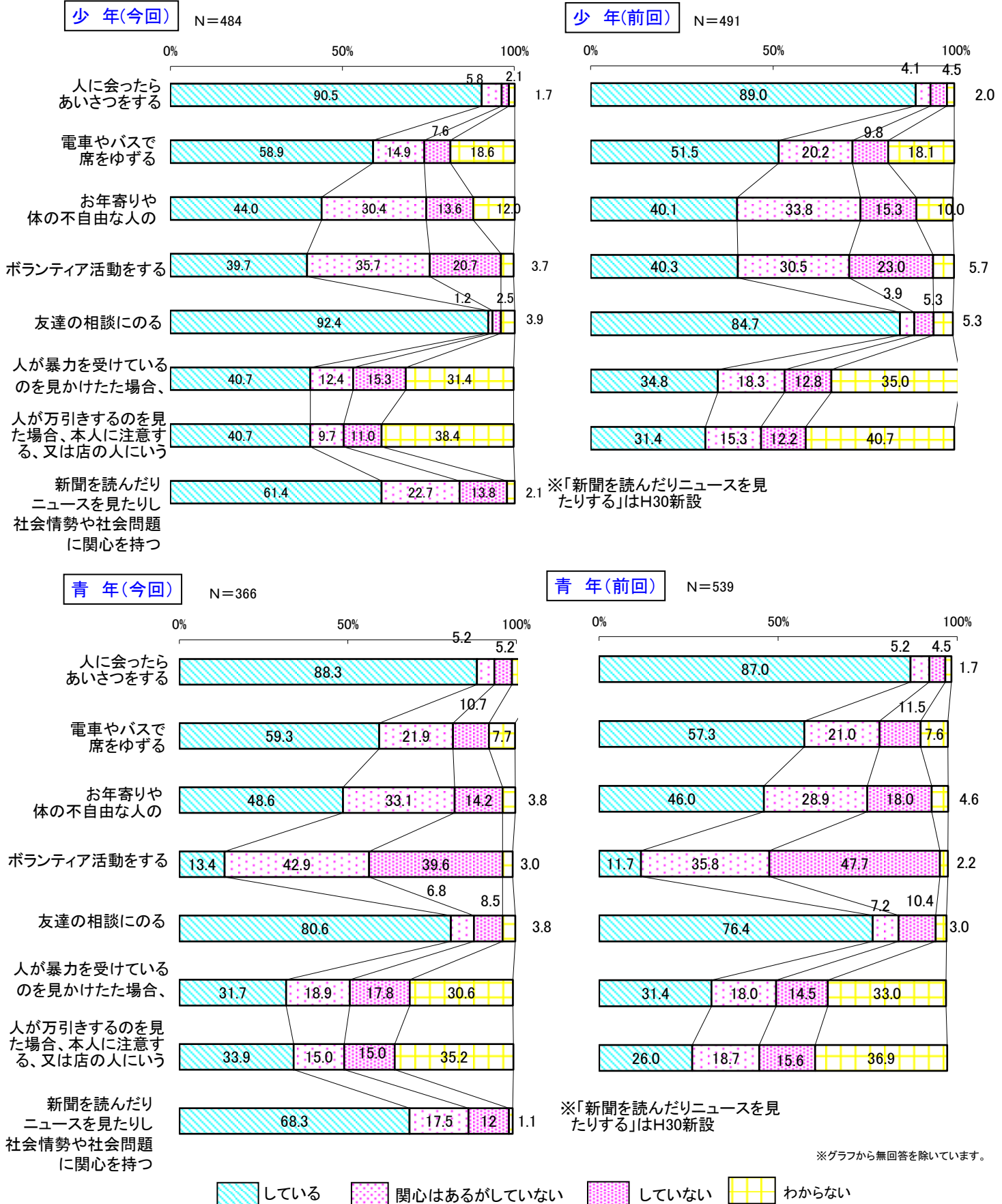
VI 青少年の健全育成

1 青少年の行動

◎ あいさつをする・友達の相談にのる青少年は8割以上、ボランティア活動をする青年は1割です。

今回の調査で新たに「新聞を読んだりニュースを見たりするなどし社会情勢や社会問題に関心を持つ」を設けました。

「あいさつ」「友人の相談にのる」について「している」と回答した少年が9割、青年が8割を超えています。新設項目である「新聞を読んだりニュースを見たりするなどし社会情勢や社会問題に関心を持つ」は、少年、青年ともに6割を超えています。

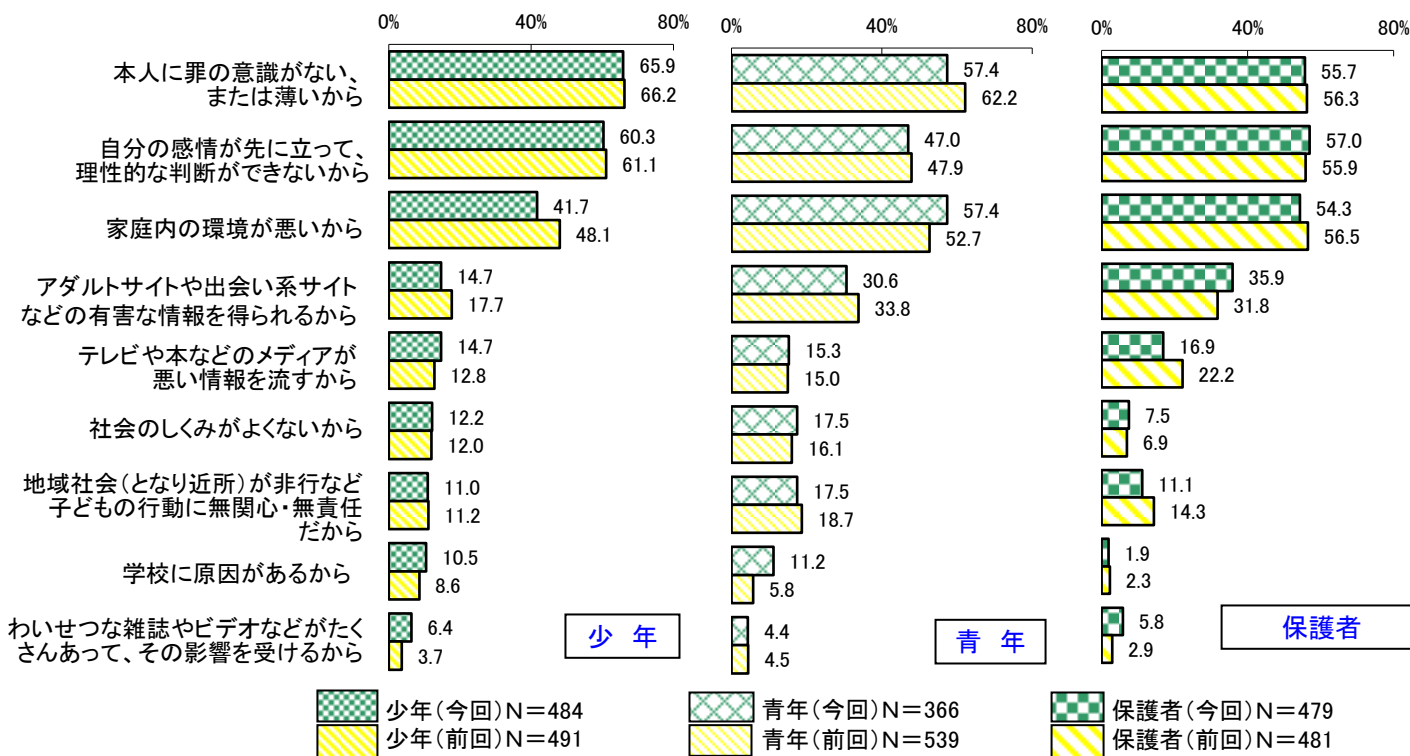


2 中学生・高校生の非行の原因・理由(複数回答)

◎ 中学生・高校生の非行は「罪の意識・理性的判断の欠如」「家庭内環境」が原因と考えています。

中学生・高校生の非行の原因・理由として、「本人に罪の意識がないから」「自分の感情が先に立って、理性的な判断ができないから」「家庭内の環境が悪いから」が多くなっています。

前回調査と比較すると、少年は「家庭内の環境が悪いから」と回答した割合が6.4ポイント減少しています。



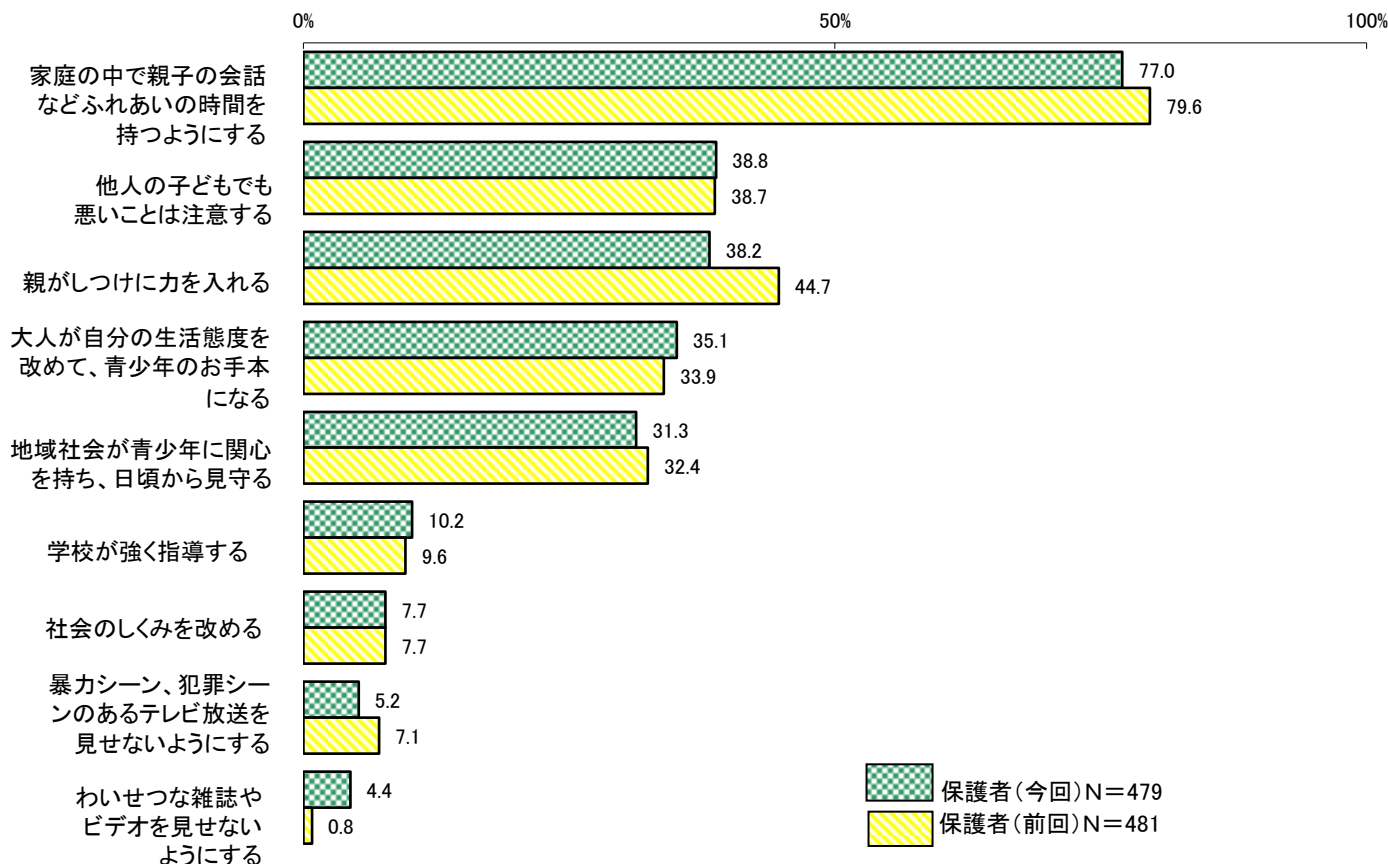
※グラフから「わからない」、「その他」及び無回答を除いています。

3 保護者が考える非行防止策(複数回答)

◎ 家族のふれあいや大人自身の行動、地域社会の関心などが非行を防ぐと考えています。

保護者が考える非行防止策は、「家庭の中で親子の会話などふれあいの時間を持つようにする」が最も多くなっています。次いで、「他人の子どもでも悪いことは注意する」「親がしつけに力を入れる」「大人が自分の生活態度を改めて、青少年のお手本になる」「地域社会が青少年に関心を持ち、日頃から見守る」の順となっています。

前回調査と比較すると、「親がしつけに力を入れる」が、6.5ポイント減少しています。

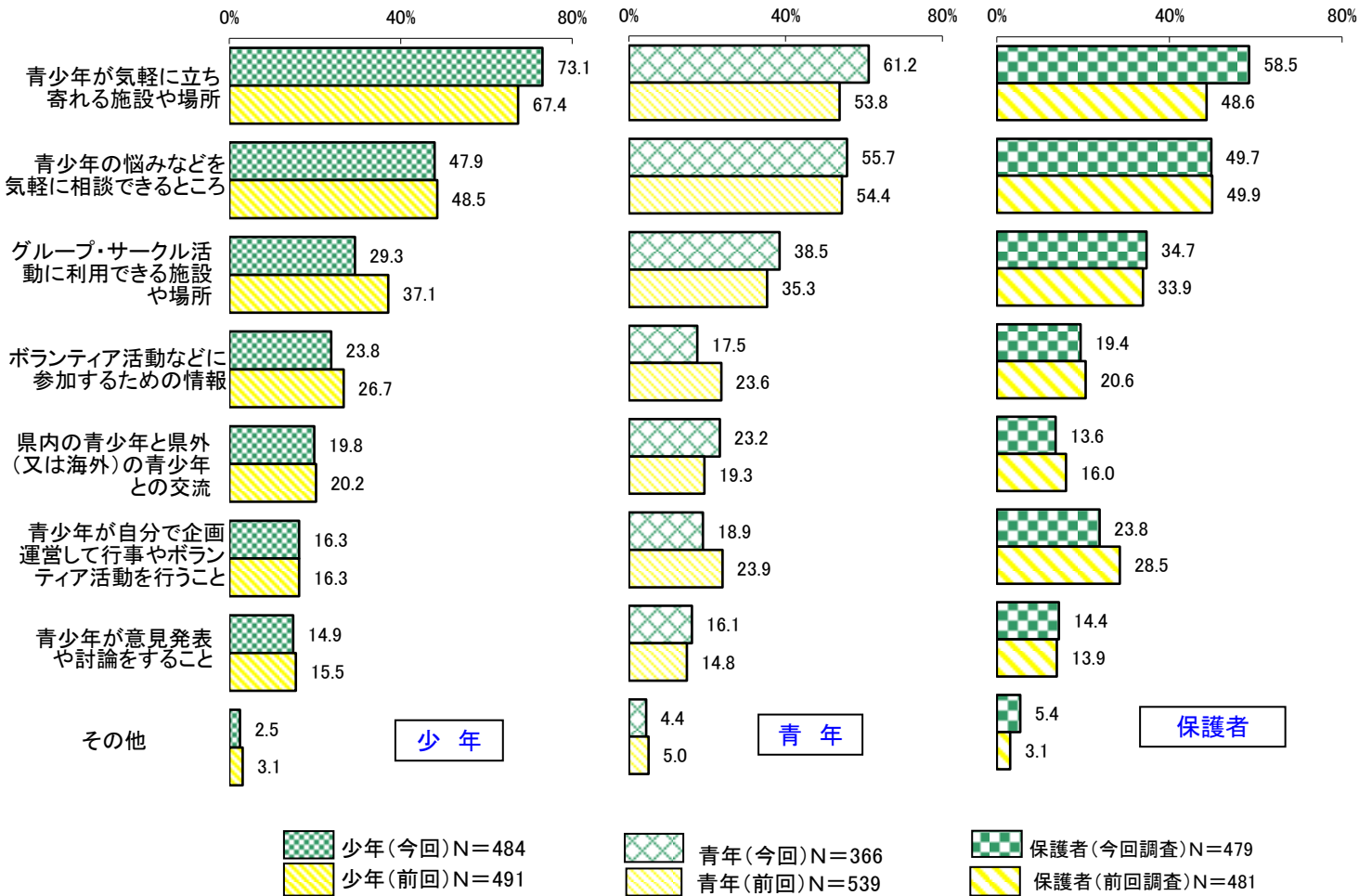


4 青少年に必要なもの(複数回答)

◎ 「青少年が気軽に立ち寄れる施設や場所」が過半数を超えています。

少年、青年、少年の保護者の全てで、「青少年が気軽に立ち寄れる施設や場所」と回答する割合が最も多く、前回調査より増加しています。

次いで、「青少年の悩みなどを気軽に相談できる場所」や「グループ・サークル活動に利用できる施設や場所」となっています。



※グラフから無回答を除いています。

平成30年度 青少年の健全育成に関する意識調査結果

岩手県環境生活部 若者女性協働推進室

〒020-8570 岩手県盛岡市内丸10-1

電話019-629-5348

平成31年3月

ホームページアクセス